朝鮮日報

(電話四三〇番)

紀元二千五百六十五年 光武九年 陰曆三月四日

定價 壹ヶ月 金參拾錢 …… 廣告 …… 發行所 朝鮮日報社

雜報

●煙草專賣の成功

政府が始めて煙草專賣を施行せんとせる當時は其收入豫算千八百万圓に對して僅に五百四十万圓の收入を見積り三四年を經て收入豫算額に達するに至りし次第なるが昨年度專賣の實施を合せて施行するに及び卅七年度に於ける成績は頗る良好にして其議會に提出したる收入豫算二千十九万圓を超過して二千七百餘万圓の多きに上りたり、其中煙草に係る收入は九百萬圓にして即ち昨年七月煙草專賣實施以來一ヶ月の收入百万圓となる割合なるが此方は豫定生産費の中に於て豫定額に達せざるものあるを以て其れだけ更に收入の増加を見るべく要するに昨年度の煙草專賣は非常の成功を得たるものと云ふべし又製煙草專賣は漸く本月一日より實施せられたるものなれば今日に於て其成績を確に豫測し得べからざるも煙草專賣と合せて煙草專賣の將來は十分の好成績を收め得らるべく但戰後經濟界の變動に伴ひ勞働賃銀の昂騰を見るに至るべきかを恐るゝのみ此を以て當局者に於ては成る限り十分に機械力を應用せん考へにて從來の卷煙草山櫻を廢して之に代ゆるに兩切卷煙草を製造するに至れるも要するに此の考を實行したるに外ならず又今後專賣業の發達と共に廣く海外に販路を擴張するの必要あり之が手初めとして今回大連灣出張所を設置したるが尚ほ往々は營口其他に出張所を設け逐次滿韓各要處に及ぼし以て販路の擴張を圖る筈なりと云ふ

●山東省の二大炭坑

青島停車場を發したる滊車が約四時間にして達し得べき[illegible]は膠濟鐵道の[illegible]にして[illegible]百八里一[illegible]千里の平原にして[illegible]から[illegible]坑の炭層は上層は一[illegible]米突中層二米突半にして下層は三米突乃至三米突なり上層炭は粉炭にして火力微弱なり支那家庭の[illegible]に使用するは尚足らざるの感あるも中層は稍良炭を得べく下層に至つては頗ぶる優等炭を出し[illegible]に比するも遜色を見ざるなり加之其採掘額は一日千噸の多きに上る見込なれば我産炭を同地方の外に[illegible]は甚し難きにあらざるを[illegible]中層と下層を採掘し[illegible]の[illegible]にして[illegible]は博山炭坑なりとす此炭坑は[illegible]を距る西方[illegible]にして其位置の[illegible]に存するは少しく不便なるも鐵道は坑區を經過し其運輸交通の上に於て何等の遺憾を留めず此坑の宏大なるは三個の停車場が新を[illegible]で相並立するを以ても其一斑を知るに難からず炭は總て塊炭にして重に濟南商面の需用に向けられつゝあるも漸大諸方に[illegible]出するを疑はず此大炭坑は共に[illegible]の山東經營上一大資源として顧ふべきものなりと云ふ

●浦塩斯徳の近狀

[illegible]事務所へ達したる最近報道に於ける[illegible]に於ける露軍は同地に於ける[illegible]一機關たりし輕便鐵道を撤去せりと[illegible]浦潮の住民は薪材缺乏を感じ居る爲め其の供給を附近の森林に求め[illegible]に拔擢しつゝあるものに不便を感ずるも[illegible]となるなからざりしか露軍が此の唯一交通機たる鐵道を取除きたるは蓋し日本軍が浦潮を包圍するの日之れを利用する事を避けんとするにあるべきも同地住民は燃料の缺乏より苦痛を[illegible]

●新收容の捕虜數

今回の大會戰に收容せし俘虜中去月下七日以降廿八日迄に各收容所に收容されたる分左の如し尚ほ此外に靜岡收容所には敵國從軍通信員五名收容せりしと

收容所	將校	下士卒	合計
似島	二八	一、二六三	一、三九一
松山	八	一四九	一五七
伏見		一八〇	一八〇
大津		一、五〇〇	一、五〇〇
小倉	三〇	[illegible]	[illegible]
習志野		[illegible]	[illegible]
福岡	[illegible]	[illegible]	[illegible]
金澤	三〇	[illegible]	[illegible]

即ち此七日間に於ける收容俘虜總數は[illegible]十七名[illegible]九十六名なり

日露戰爭が未曾有[illegible]時局[illegible]に及ぼしたる影響は[illegible]なるは[illegible]

[illegible]産の輸出價額の前年より二千五百萬弗を減じて五千四十萬弗となりしは爲めなるに人或は[illegible]輸入減少せしが爲めなるも[illegible]は[illegible]が漸く日本の手に歸せるゝに至る[illegible]の大戰爭たるべしと豈[illegible]ふる者もあるも[illegible]は米國は[illegible]各種の[illegible]の大需要を喚ぶべく多少要[illegible]粉を失ふも他の利益は之を償ひて餘あれば吾人は米國が平和の速かに來らむ事を願ふのみ云々と一米國新聞は論じ居れり。

理想と寫實 (三)

キムム

三笠やきて佐保川の氷溫みけり 芳[illegible]

一三笠やきて來人の野のする句だ、焼い[illegible]すんなりとして來人野のする句だ。[illegible]は入らぬ、三笠に[illegible]たろうか、退屈だね、[illegible]も[illegible]んだその[illegible]が芳[illegible]流だね、佐保川の水、此響和の可なるは言ふ迄もない。

山城や甲斐と越後の國界

一[illegible]や[illegible]だ、肅上[illegible]やらか甲斐と越後[illegible]は[illegible]いでますかど反向した人があつたよう[illegible]だ、俳句は地理學の講義にあらずま、二十[illegible]を採つたのだ、即ち聯想上の作だ。[illegible]の[illegible]ふ[illegible]たの[illegible]だ、踏迷ふとは如何何んとか外に言ひ[illegible]はしはあるまいか、[illegible]子の如く勇健の性質を帶ひてるものには[illegible]不調和た何れ[illegible]を[illegible]かれたとの場合だろうが、然よ焼野の[illegible]子と社會にツイ通りの[illegible]がある[illegible]のだから、夫れだけ更に苦むしで[illegible]つて貰ひたい。

[illegible]やふもその村の灯の淡き 獸安

[illegible]そは[illegible]に[illegible]し[illegible]句で、極めてスラ〳〵と往つてる、[illegible]此句を作る人は否此景と[illegible]人は、山[illegible]だろうか山[illegible]のある坂で[illegible]りかゝつた旅人だろうか、何にしても山なり坂なりから遙ふ奧村を見渡した場合を言ふた主觀的で、作者自身の遭遇しつつあるように感じられる、むしろ無造の天地人以上の句だね。

[illegible] 抽樹

[illegible]を[illegible]や[illegible]し[illegible]所乃ありし所 [illegible]

[illegible]一[illegible]朝 [illegible]だね、[illegible]くはないか、朝鮮の主[illegible]は[illegible]にすると何等の[illegible]を[illegible]せぬ、[illegible]しと云ふ[illegible]が[illegible]に[illegible]るものを意味して[illegible]るのであるから、之れは日本的に解さねばならぬが、日本的とすると、由井の[illegible]、[illegible]の首[illegible]であつた處とせねば[illegible]はない、うれとするとと少し[illegible]ない[illegible]

日本文界に與ふるの書 (四)

在仁川 古山 劍鳳

名も知れぬ小鳥飛立つや[illegible] 天[illegible]

君は知らぬだろうが、そりや蛮(?)だつたよおまけに此句の中からは一羽か飛立すかつたよ、從つてコヲヤ一寸した土手を摘草しでもよく生やすべくやいたものだらう、ソーだろう君。

(以下評なし但草若葉山やきの二題について)

足下よ、然らば他方面の文學的作物、明かに云へば明治文學前生期を代表するといふ彼の「新體詩」は[illegible]か論評を下すやとするも吾人は遂に[illegible]何然たる能はざる也。落合直文か一時高呼[illegible]したる當時に於ては較々新進の氣[illegible]を代表したるものありしも彼の[illegible]評等が新派の牛耳を執るに至りては[illegible]的一歩を退げて云へば唯自然の一部に人間の美妙なる心靈を吟唱したるに過ぎず、今一歩を讓りて云へば望と星と[illegible]に[illegible]れる[illegible]か[illegible]な[illegible]人心の[illegible]を[illegible]る思潮に過ぎずして彼の[illegible]山[illegible]海的[illegible]放若くは天[illegible]妙の秘密を捉へ來りて之は詩に酔きに挾したる一大詩篇は吾人遂に之を前生期の不響的作物に見ざりし。明治文學史と[illegible]したるを見ざりと還[illegible]とす、其他評論界に高山樗牛を出だす大町桂月を生めり、樗牛の聰明斷にして[illegible]一下すれば堂々として[illegible]人の[illegible]野を行く[illegible]觀あり、然れども異に卓[illegible]一世を[illegible]、高[illegible]方世を[illegible]くに至りては呼遂に未だ[illegible]。彼れが文學評論に於て皆公を論じたるの稚氣を見よ。土井晩翠に[illegible]へたるの一番、文士の逆境を悲觀し[illegible]るは吾人[illegible]を[illegible]じふすれ共幾多[illegible]歌すべき前生期の文學[illegible]興時代に斯かる悲論に[illegible]月を[illegible]費したる[illegible]は吾人の大に彼れが[illegible]屍に[illegible]づべき天職を有すべきを指する也、樗牛の一文一何克く[illegible]に當れども[illegible]に誇るか如く[illegible]せし[illegible]彼[illegible]たりしか故に讀者をして學を[illegible]へ[illegible]しめたるは[illegible]に樗牛の[illegible]に[illegible]大の[illegible]彼れが日本主義を唱し[illegible]してあらゆる宗教[illegible]然り[illegible]宗教界を罵倒し宗教を排斥せしにも係らず日蓮の如き一僧の念を[illegible]したるの負[illegible]は何んぞや、[illegible]「神の記」は彼れの傑作なるか爲めに[illegible]に明治文學前生期の美文として後世の最大遺物なりと云ふものならん。[illegible]「[illegible]か[illegible]の記」[illegible]作として[illegible]花と見[illegible]も之れを以て前生期一代の文學の[illegible]たりとする[illegible]や。[illegible]後[illegible]して[illegible]の位置を[illegible]すに足らず、一[illegible]れば[illegible]一大精力を[illegible]ちて[illegible]或は[illegible]情詩に、或は[illegible]に明治文[illegible]

滄々浪々錄 (三)

劍 鳳

[illegible]の[illegible]するも其の[illegible]は[illegible]に[illegible]へ百歩の差を見るど斷ずる[illegible]にあらざる[illegible]也。

◎余か「滄々浪々錄」中の一節を捉へて良去なる人の[illegible]を見る、余は[illegible]主義を[illegible]的排斥す、余の主義は惡魔主義也、[illegible]主義也、明かに云へば戰爭主義也、極端に云へば平和を[illegible]し人[illegible]を無視せんとするの主義者。

◎余は斯かる主義を有す、故に良去君との主義理想上の衝突は徹頭徹尾免れざらんのみ、余は平和主義者たらんとするあと屢々なりき、余にても[illegible]平冷酷を好尚するものにはあらず、然れども余は斷然彼の平和平等主義者たる能はざるの理由あるを如何にすべきぞ、乞ふ暫らく之れを聞け。

◎そも平和とは如何なる底度に於ける平和か、そも平和とは人生に對する普遍的平和か、足下が余の言に[illegible]の種子たるか如く余が又足下の[illegible]々として說く、明かに云へば足下の主義とする[illegible]平和を極力排斥せざるべからず。

◎平和とは何んぞや、平和とは[illegible]に於て謂へば人間か[illegible]天的[illegible]たる普遍的心念を[illegible]せんとする[illegible]主義也、何か故に斷く謂ふか。

◎文明は其の絕頂に達するも、開明は其の頂上に至るも人間か人類を生む間は明かに謂へば人類の種族が[illegible]ざる間は到底種族的戰爭、[illegible]非種族的戰爭は免れ得べきものにあらず、[illegible]教育の進歩科學の進歩[illegible]に一層の[illegible]の劇烈なる戰爭[illegible]に[illegible]會上に演出されつゝあるは事實に於て將亦科學上に於て明かなるにあらずや。

◎而して平和の裏面が戰爭なるは何人も異論なき[illegible]、即ち平和は戰爭を全然[illegible]とするの[illegible]、平和は[illegible]する人[illegible]生存競爭[illegible]して[illegible]の人生に[illegible]望と[illegible]情と[illegible]を[illegible]人しで[illegible]を[illegible]せんとする[illegible]ものなるのみは[illegible]なる[illegible]なるべし。

◎平和論者乂謂へり「一世は適者生存者の舞臺とせば遂に獸的社會たるを免れず、平和の一機をも認めずして人生は如何に生存すべきぞ」と、亦「人生の向上的理想は唯平和を得んとするにあるのみ」と、あゝ何んぞ其の[illegible]ても[illegible]しきや、何んぞ[illegible]解の[illegible]なるや。

◎平和論者又謂はんとす、[illegible]なる生存競[illegible]は到底人生の平和を[illegible]するもの、宗教の[illegible]、教育の[illegible]、あらゆる武器を以て之れを[illegible]ざるべからず、否平和の光明を普ねく[illegible]んとせば[illegible]競爭主義を極力破壞せざるべからずと。

◎然れども種族の戰爭は前述したる如く到底[illegible]さるべきものにあらず、極端に云へば宗教も教育も凡ての[illegible]理も益々其の戰爭の劇烈を助長せんとするの武器也、野蠻時代に於ける肉的戰爭は假し廢さるゝものとするも精神上の戰爭は其の慘烈の極を演じつゝあるにあらずや、肉的否戰爭さへも未だ全廢されたるにはあらず否更に劇烈なる歷史を[illegible]されつゝあるは乞ふ事實の證明に見ずや。

文苑

●椿村 (三)

黒潮

我夫の君も今はしも、
斯くなる可しと知りなから、
急ぎ〳〵て滿州に、
向ひ玉ひし其留守に、
我は獨りの花の主。

散るを嘆くぞ悲しやな。
花と說けますものならば、
稀と咲きて我庭の、
今宵の雨よ散りませば、
我も遅れし八重椿。

重なる縁し後世まで、
離じものと思へども。
番ひ離れし鴛鴦の、
獨り寂しき水の面、
浮ぶ花辨色あせて、
寄邊は朝の風のまゝ、
魂は通はし君の道、
木々の梢は春の雨。
慰めかねて姉君を、
強いて勸めてかきならす、
琴の調はゐつしかに、
峯の嵐か松風か、
尋ねる人の戀の歌、
妾もと共に想夫戀。

講談

武勇の譽 (仇討) (廿九回)

本社 丸井竹林講演 員述記

亭「さうか藤助は早々二階座敷に參りまして○「旦那樣御召しでございますか」重「お前か主人と恐ろしい熱で誠とに苦るしい醫者を迎へてもらひたいものだ」亭「へへエー成程大分御顏色が惡うございます旦那樣旅籠屋の亭主が左樣なあと申しますと御笑ひもございますか知れませんが私くしは旅籠屋の片手間に醫者をいたして居りますが如何でございませうか鳥渡お脉を拜見いたしたいもので」重「夫は恰度よひ一ツ見てくれ醫者といふ妾の拵らへでもございませんが一ツ拜見をいたしませうと」木田屋藤助は重太郎のさし出したる手を取てすカシジンノミ脈を取り例の如く診察を終りました」藤「之は大變でございますたゞの熱ではございません貴下は實に御強ひ御方でいらつしやいますな私くしも今日まで隨分病人も手掛けましたがコンナ熱の御方を見たあとがございません此れくらゐの熱があつてはモー迚も生るあとは出來ないので夫れを貴下は平氣でございますが實に英傑とも申しませうか」重「隨分苦るしい」藤「旦那樣之は毒蛇に觸れた爲めにでも罹らなければコンナ熱の出るはずがございません」重太郎手を打つて重「イヤ恐れ入つた高が旅籠屋の亭主と心得て實は俺もさほど信じなかつたが其の一言にて感ひあたつた實は先頭手前が或る所の農民の爲に毒蛇をしとめたあとがあるが大方其の時彼の毒氣に當つたものであらう何うか一ト療治してもらひたい」藤「かしあまりました實に旦那樣、天下の英傑で入らつしやいます、醫く此の熱でまうしておいでなさいます何しろ之は早く何うかしあげければいけません今朝は御飯も召上れますまいがナニ上らなくつても宜しふございますおち付いてお休みあそばせ只今お藥をさし上ます之ら亭主が藥りを煎じて持て參りました重[illegible]日は側に付切りで看病をいたしました然るに次第に熱が取れてくるし隨がつて快方に趣むきました重「何うも御亭主かたじけない忘れたごとく氣分がよくなつた前は何うして此の旅籠屋の亭主で居なから斯様に醫者か上手だ感服の外はない」藤「へーー私くしは加賀の者でございまして親父は醫者でございます若ひ自分に醫學を修業いたしまして當國則ち當所に親戚がございまして相續人がないといふので此處の家へ十七の時に養子に貰はれましたそれ故片手業にこうして醫者をいたして居りますナ」重「さもあるべし實に恐れ入つた」藤「之から御風呂に御召しになつたがよろしふございます藥湯を立てますから」重太郎もいゝ心持になる緣るに此の七八日といふものは癲りに藥湯に勸めました十日ばかりの間に丞ごとく全快をいたしました重太郎も不審に思つて居りますると或る日ザンザン雨の降りまする日でございましたが藤「旦那樣御無沙汰をいたしました」重「アー御亭主サア此方へお前に逢はないで誠とに心細かつた御用達しかナ」藤「イエさういふ次第じやあございません時に先生其の后御身体は如何です」重「イヤお影で全快をした」藤「夫れでは今日はマアゆつくり一ト口もし上ながら御話しをいたしませう」重「夫は忝じけないが亭主よい」藤「何うかさうおつしやいませんで宅は旅宿屋だ客が馳走になるといふ法はない」藤助が今日は御馳走をいたします酒肴ばを運ばせまして四方山の話しとし乍から酒を飲めば盃なあとゝ思つたが何うも仕方かない

朝鮮日報

公報（十月七日午後三時領事館着）

一、開原に在る我軍の一部隊は三月二十日鐵花街道（開原の東北廿三哩吉林街道に亘りて）に近く［illegible］を占領し四月三日［illegible］孤樹子に［illegible］せり

一、［illegible］昌圖の西北方に於て我を攻撃せしも我は之を擊退せり［illegible］

通信

●十五分間の申込

●公使召還問題

●京釜鐵道開通式の餘興

●通信院諸帳簿の引渡

●觀覽列車運轉

本部通信

●民長招聘に就て

鎭南浦たより

昨年二月開戰以來鎭南浦の發達は非常なるものにして邦人の來住するもの續々踵を接し將來益々膨脹せんとするの趨勢あり今

●學齡兒童の入學式

付凡そ九拾頭乃至九十五頭なり

右は民役所建築當時建築費の一部分を寄附

朝鮮日報

山賊の曲

……

東京　社告

右者昨日限り退社致
候に付自今本社に關係無之候也

四月八日

朝鮮日報社

秋月　琢磨

廣告

電話交換手ヲ募集ス
志願ノ者ハ本人自筆ノ履歷書ヲ添ヘ志願書ヲ提出スベシ

但シ志願書履歷書ノ式及試驗科目程度其他詳細事項等ハ當局ニ就テ承合スベシ

明治三十八年四月

釜山郵便局

●卷煙草●刻煙草
宇治銘茶園製
●銘茶●各種石鹸
●齒磨類●麻裏草履
右卸小賣共大勉強

南濱小倉庵に

（紀）宇田商店

疊製造並表替

營業開始

其外指物一切御注文ニ應ス
タンス鉢類帳タンス小賣大勉強

釜山西町三丁目

鈴木商店

琉球名産泡盛燒酎

琉球紛

全通出張所

團野酒店

臺灣直輸入夏ぼうし
一手販賣

經濟　堅固　高尚　優美

釜山港北濱町壹丁目

横濱商店

おしろい化粧水
花札かるた才類
新銭入貰入袋物
香水香油石鹸類
其他足袋麻裏雜貨小間物一切

諸品問屋

（吉）明治屋

精白米廉價販賣

石炭米共

南濱町海岸通四ツ角

西原商店

調劑所

處方調劑ノ依頼ニ應ス

釜山本町

弓削盛藥館

漆器類シナカバン
其他新古日用家具
右卸小賣廉價販賣
御不用品何でも買ます
家具品競賣致ス

古物商　雜貨商

幸町三丁目

油谷商會

（電話二五七番）

有價證券賣買

御不用ノ方ハ御報知願上候

公なる周旋業

津田光藏

電話二五七番

大黑

電話開通　四〇三番

砂糖ノ品質ニ於テハ……精糖ハ……出ズル者ナシ

高瀬　支店

高瀬煙草部

（電話四〇三番）

銃砲火藥商

大坂

出張店

（電話二六一）

景品總額參百圓

本月拾日より五月二拾日まで

抽籤期六月一日

賣出し

鶴池商店

（電話三四一）

大賣出の廣告

注意

附属販賣部

最上醬油元祖

宮内省御用達

名譽金牌受領

醸造元　千葉縣銚子港　濱口儀兵衛

附　西洋御料理　玉突場

Restaurant

釜山幸町一丁目

小倉庵

電話一五一

獨逸直輸入

アルコール

一手特約販賣

大黑藥店

たばこ　小間物　雜貨

靴

井筒屋

瀛船釜山出帆廣告
日本郵船會社

●ヲハヨー號 四月八日 馬關神戸大阪行
●伏木丸 四月十二日 門司神戸行
●日東丸 四月十一日 長崎門司神戸行
●トンクス 四月十八日 長崎門司神戸行
荷客取扱所 大池回漕店

汽船釜山出帆廣告
大阪商船會社

仁川鎭南浦行
●大禮丸 四月十日 三月十五日
●安東丸 四月 三月十三日
仁川鎭南浦行
●灣城丸 四月八日 三月十八日
●フイード号 四月四日 三月十一日
●大山丸 四月 三月十八日
門司行
●日新号 但門司釜山間隔日往復航海
木浦群山行
●肱川丸 四月九日 三月四日
下關神戸大阪行
●宮嶋丸 四月九日 三月四日
●木浦丸 四月十一日 三月十五日
●天照丸 四月十二日 三月八日
●蒼龍丸 四月十二日 三月八日
馬山木浦群山行
●木浦丸 四月十六日 三月十二日
釜山長崎博多下關神戸大阪行
●手取川丸 四月十七日 午後十時出帆
元山行
●蒼龍號 四月十六日 三月十三日

大阪商船株式會社
沿岸線
●瑞鷹丸 仁川群山間毎週三回往復

釜山出帆廣告
合資會社 深川瀛船
定期汽船 金州丸(若津代船)四月十一日午後六時
廠原唐津行(九州線道ニ連絡ス)
荷客取扱店 中上回漕店方 國中商店 電話二四〇番

釜山出帆廣告
八頭司瀛船
●萬歲丸 四月十一日 馬關大阪行
●山陽丸 四月十日 馬山浦行
荷物ハ毎午前九時迄但シ午后二時出帆
●馬山浦丸 四月 日

⊘ 瀛船釜山出帆廣告
八頭司船舶部

●京畿丸 三月九日
●商號 四月 三月
●寶丸 四月 三月 仁川鎭南浦行
●豐號 陰 四月 日
●正成丸 仁川群山間航海中
馬關門司 釜山代理店 山川回漕店

●松前丸 四月七日 三月二日 仁川直行
●幸光丸 全 月 日
●靜丸 全 仁川芝罘 航海中
●貫効丸 同
釜山港本町通海岸郵便局前 荷客元扱 山川回漕店 電話一七八番

瀛船釜山出帆廣告
大阪 尼崎
●太湖丸 四月十日 仁川鎭南浦行
●神代丸 四月十三日 馬關神戸大阪行
●第二崇散丸 四月九日 全
●大有丸 四月十二日 下關神戸大阪行 全 仁川鎭南浦行

大坂 絹川瀛船出帆廣告
●錦龍丸 四月 日
大池回漕店 (電話三百十五番)

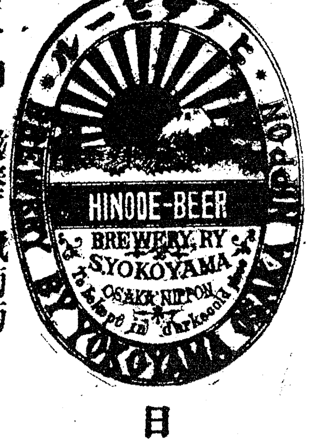
瀛船釜山出帆廣告
世昌洋行瀛船 門司神戸大阪行
●第八永田丸 陽 月 日 陰 月 日 行
●ダクマル號 四月 日
●スルベルグ號 四月 日 馬關神戸行
釜山運輸組合 第四共同丸 四月 元山行
沖永回漕店 (電話百六十七番)

●第四共同丸 四月 日 元山行
●第五永田丸 月
釜山運輸組 (電話百二十七番)

世昌洋行汽船廣告
濟州 門司神戸大阪行
●ダクマル 三月 日 午後五時出帆
仁川鎭南浦 州湖行
●スルヘルク 月 日 午後五時出帆
世昌洋行汽船元扱店 サ 香藤回漕部

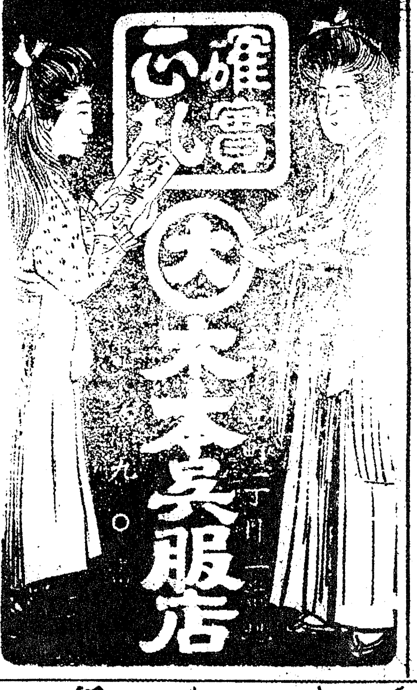
瀛船釜山出帆廣告

●防長丸 四月十日 元山行
●爲朝丸 四月十一日 馬關神戸大阪行
●浦□丸 四月八日 下關神戸行
荷客取扱店 三木回漕店 電話八三番



日ノ出ビール

其他洋酒類は一切製造販賣仕候間多少ニ拘らず御注文被下度候
きす印 滋養香竄葡萄
韓國一手販賣元 釜山港西町三丁目 久米洋酒店



大坂 每日新聞
●又々二大割引●
一ケ月 四十錢
大阪時事新報
東京日日新聞
報知新聞
萬朝報
東京時事新報
其他各新聞取次販賣仕候
壹ケ月 參拾錢
釜山本町二丁目弘中事 第一おかく屋新聞舖
釜山西町局前田中事 第二おかく尾新聞舖 (電話三百十四番)

歯科專門
幸町南濱通上田商店南和田野醫院ヨリ五軒目
共生醫院假治療所

電話開通 (番號貳九番)
釜山幸町 加納商店

電話 五番 (番號變更廣告)
木本商店

電話開通 三〇八番
釜山北濱 水野巖商店

電話開通 番號三四八番
釜山港西町三丁目 雜貨問屋 明治屋

電話開通 番號三一七番
釜山南濱 大黑藥店

電話開通 番號四一七番
釜山南濱通 日朝寫眞舘

電話開通 番號三四二番
幸町三丁目
紙帳簿文具商 ㋑ 岩立商店

電話開通廣告
醫學得業士 芳野愛介
眼科耳鼻咽喉科 内科 婦人科 入院隨時
釜山港入江町 爲人堂醫院 (電話三一三番)

電話開通 四百拾番
幸町山口新聞舖 山口謙男

營業課目
(業務擴張)
大坂京都地方と連結を通じ雜貨野菜乾物類の輸入致居候に付御入用の節は商品より雜貨一途を旨とし貴需に應じ可申候何品によらず御委託品の賣買に應じ可申候
迅速 誠實

京都産野菜類韓國特約販賣
雜貨輸出入商 諸品依托賣買業
釜山港西町五丁目二番地 (大廳町學校前) 山口三郎店 (電話二百三十八番)

煙草製造販賣廣告
大日本政府專賣局ノ特許ヲ受ケ高級ナル日本葉煙草ヲ輸入レ多年練磨ノ技術ヲ以テ高尙優美ナル刻煙草紙卷煙草ノ製造業相營ミ懇切ヲ旨トシ販賣仕候ニ付多少ニ不拘御購買ノ願上候

紙卷煙草ノ部
●旭の煙 貳十本入 定價金六錢
●文明 貳十本入 定價金五錢
●鳳凰 貳十本入 定價金四錢
刻煙草ノ部
●高尙優美特製桐の煙文明各種
●旭の煙紙入包紙入各種
他紙卷煙草各種玉造ハ御注文に應シ特製可申上候
韓國京城製造元 日韓烟草商會

緊急廣告

灘名酒


大樽四斗四升六合入

●靜海印
清酒ハ從來北海道及ヒ關東ニ輸送シ來リ毎々非常ノ好評ヲ博シツヽアル事ハ當路者ノ認識スル所ナリ
●靜海印
清酒ハ品質良好ナルノミナラス特ニ登番樽ヲ使用セルヲ以テ其入量非常ニ多ク從テ計算上價額割安也
弊店開業以來日猶淺キニ不拘日増繁昌ニ趣キツヽアルハ畢竟大方諸君ノ愛顧ニ起因スルモノニシテ深ク感謝スル處ニ御座候元來弊店ノ營業取扱ニ付テハ既ニ豫告仕候通專ラ眞實信義ヲ旨トシ彼ノ徒ニ大言壯語ヲ以テセズ要ハ不言實行ヲ期シ益々御精愛顧ニ酬ヒント存候故ナア多言ヲ費セズ大方ノ諸君希クハ倍舊ノ愛顧アラン事ヲ乞フ
釜山本町海關波止場前 酒類醬油罐詰卸小賣
靜海印韓國一手販賣特許店 林田信藏 電話百六拾七番

養蠶傳習生募集
●蠶業は農家の副業として唯一至大の利益あるものなり母國日本が之に依つて輸出吸收する金額は輸出總額の殆んど半に過ぎず養蠶なる哉養蠶なる哉
●韓國は農業國なり土地氣候乾燥せるの國なり蠶業の最好飼育場なり即ち素人にても容易に飼育して確實の收穫あるおとを疑はず
●當國にありて農業に從事せんとするものは米麥作を以て食料に充て養蠶を以て經費及貯蓄の料に當つべし
●本所は日韓人及男女に論なく完全に傳習教授すべし
●傳習生 拾名募集
●傳習所開期 四月中季ヨリ六月上季マデ
●希望者には製絲法も傳習す
●韓人ふして傳習せんとするものゝ爲には韓國ノ人にして日本に渡来し五ヶ年間修得の上本所にて助手となり居れは總て於て便利なり
●年齢 満十三才以上
●傳習所は釜山鎭より十町程の池谷にあり
●委細は左記よつき問合はさへし
釜山港富平町拾七番地日韓農會
内田竹三郎
谷池養蠶傳習所

